

令和7年度 自己評価書

学校名	北海道苫小牧総合経済高等学校
-----	----------------

1 本年度の重点目標

楽しいと思える学校づくり～高校3年間でしか経験できない教育活動の充実～

2 自己評価結果

評価項目・指標等		達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策	
大項目	中項目	小項目			
教育課程・学習指導	教育課程の状況	・習得した知識等はシラバスで示した目標に照らし十分であり、生徒の内発的動機付けに工夫を凝らした授業と学習評価への取組を行っている。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が80%以上であった。)	A	A	・生徒が主体的に学ぶ姿勢を身につけ、他者と協同しながら学習の自己調整を図ることができる授業づくりを積極的に実施する。 ・学びの成果を校内で共有できる体制を構築するための校内研修の機会を積極的に設ける。
	各教科の状況	・各教科の指導内容・ねらいを明確化し、目標に応じた指導が行われた。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が70%以上であった。)	B	B	
		・課題の設定、整理分析、まとめなどの学習活動を実践することができた。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が70%以上であった。)	B	B	
生徒指導	生徒指導の状況	・未然防止、早期発見に向け、生徒情報の把握、提供、共有に取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果の割合が90%以上であった。) ・授業をはじめ、特別活動や部活動等とおして、積極的に生徒に声掛けに取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が90%以上であった。)	A	A	・基本的生活習慣の確立と安全教育の充実を図るため、担任と分掌、委員会等の連携を密にし、組織的な生徒指導ができる体制を構築する。 ・保護者との信頼関係を基礎とし、関係機関との適切な連携を図ることにより、生徒が安心して学校生活を送れる環境とする。
	人格的発達のための指導状況	・適切な目標設定のサポートや自己決定の機会の提供、結果に対する責任の取り方等について指導を行った。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が70%以上であった。)	B	B	
進路指導	就職・進学指導の状況	・生涯に渡って学ぶ意欲や働く意味について理解を深める教育活動の実践に取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が約50%であった。) ・授業や面談等を通して適性を見極め、多様な進路情報の提供とアドバイスをを行った。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が70%以上であった。)	B	B	・進路シラバスに基づき、進路指導部と学年との連携を密にし、3年間を見据えた系統立てたキャリア教育の推進を図る。 ・進路指導部、家庭や関係団体等との連携を深めながら組織的な進路指導の充実を図る。
	地域・企業との連携状況	・進路指導部、家庭や関係団体等との連携を深めながら組織的な進路指導を実現することができた。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が約50%であった。)	C	B	

その他

健康・安全指導	健康指導	・生命尊重や健康・安全に対する習慣と態度を高めさせる指導に取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合80%以上であった。) ・講演、訓練、特別活動等を通して、意識を高める指導に取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が約70%であった。)	B	B	・健康、安全について、自ら考え行動できる生徒を育成するため発達段階に応じた全体指導と個別指導の充実を図る。 ・特別な配慮を必要とする生徒に対する教職員の共通理解を深めるとともに、全教職員のカウンセリングマインドをためるための研修を積極的に実施する。
	心の病気への対応	・教育相談体制の充実を図りながら、健康意識を高めさせる指導に取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が約70%であった。)	B	B	
学校運営	信頼される学校づくり	・共通理解のもと、目標達成に向けた教育活動を実践した。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が約70%であった。) ・学校ウェブや通信等を活用した情報発信及び外部機関との連携を実践した。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が約60%であった。) ・評価から授業や業務等の改善に取り組んだ。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が約60%であった。)	B	B	・生徒の学習内容や活動等の積極的な情報の発信の強化を図る。 ・中間反省、年度末反省における課題について学校全体で解決について話し合い、チームで取り組める雰囲気醸成に努める。 ・中間反省、年度末反省における課題について学校全体で解決について話し合い、チームで取り組める雰囲気醸成に努める。
	組織運営	・課題解決に向け職員間での対話を高めながら、他分掌等、学校運営に関わる業務内容を理解できている。(学校評価アンケートで肯定的な評価の結果が約70%であった。)	B	B	
	教職員の資質向上	・服務規律、危機管理を意識し校務に当たった。(学校評価アンケートで肯定的な評価が100%であった。) ・教職としての知識技能を求め、実践を積み重ねながら教育活動の充実を図った。(学校評価アンケートで肯定的な評価の割合が90%以上であった。)	A	A	

次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

・生徒が主体的に学ぶ姿勢を身につけ、他者と協同しながら学習の自己調整を図ることができる授業づくりの実践。
・学びの成果を校内で共有できる体制の構築。
・組織的な生徒指導ができる校内体制の構築。
・3年間を見据えた系統立てたキャリア教育の推進を図る。
・健康、安全について、自ら考え行動できる生徒を育成するため発達段階に応じた全体指導と個別指導の充実を図る。
・学校Web等を活用した生徒の活動の情報発信及び外部関係機関との連携の充実。
・他分掌等、学校運営に関わる業務内容の理を深めるとともにチームで課題に向き合い、行動できる職員集団の育成。